

空虚なコトバ

ニュース・テレビで盛んに聞き苦しいコトバが聞かれる。

いわく「最大限の努力する」「全力で」「きっちり」「しっかり」。すべてが定性的な恣意的意見にすぎず、なにひとつ具体的定量的なものはない。「最大限」とは、これ以上はない極限という限界だが、そういう努力とはどれだけの努力のことか。その人その人でちがうだろう。最大限の力で100mを走ったとて、我々の誰も酔ったウサイン=ボルトより早く走れない。最大限と言う当の本人の最大限の能力は何の成果もない出来の悪いものかもしれない。言っている本人がただお喋りしているだけのことで、そういうコトバを平然と人前でしゃべる人間は不誠実な、しかし不誠実であることにも気づかない哀れな人間と思って間違いなさそうである。こういう人間の全力と、誠実な人間の全力は、量りにかけると値がまるでちがうだろう。

誠実な人間ならば、最大限の努力がいかに実行困難であるか、じっさいこれまでに自分が最大限の努力をしてきたことがあるかを内省している。けっきょくは自分の利益を毀損しない範囲の中という注釈付きであったと知っている。だから、空虚なコトバはいわないものである。